

会 議 録

会 議 の 名 称	第3回第2次美幌町観光振興革新戦略ビジョン策定会議
開 催 日 時	令和8年5月25日(月) 15 時 30分 開会 17 時 40 分 閉会
開 催 場 所	美幌町役場 1階 第1会議室
出 席 者 氏 名	宮田委員長、伊藤副委員長、原田委員、信太委員、円舘委員、泊り委員、奥山委員、小林委員、滝川委員、小笠原委員、佐久間委員
欠 席 者 氏 名	弥三谷委員、田中委員、野口委員、幸田委員
事務局職員職氏名	中村商工観光課長、午来農業振興主幹、明瀬商工観光G主査、
議 題	1 開会 2 挨拶 3 報告事項 第1号 前回会議の結果について 4 協議事項 第1号 基本方針及び重点施策の具体化について 5 意見交換 専門家「域外需要の取り組みに向けた地域の魅力向上事業」との意見交換 6 その他
会議の公開又は非公開の別	公開
傍 聴 人 の 数 (会議を公開した場合)	0名
会 議 資 料 の 名 称	第4回第2次美幌町観光振興革新戦略ビジョン策定会議次第 資料1 前回会議の結果（今後取り組みたい・連携したい取組内容） 資料2 基本方針（案）の骨子
会議録の作成方針	☐ 録音テープを使用した全部記録
	☒ 録音テープを使用した要点記録
	☐ 要点記録
その他の必要事項	

発言者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
中村（事務局）	1 開会 開会挨拶、オブザーバー紹介（合同会社ぼたん 中谷百香理氏）
中谷氏	2 「合同会社ぼたん 中谷 百香理氏」 挨拶
宮田委員長	【第2次美幌町観光振興革新戦略ビジョンコンセプトの提示】 ・美幌は女満別空港から10分、4本の国道とJRが交差する交通の要衝だが、これまでは「通過型の町」だったと指摘。 ・地理的優位性を徹底的に活かし、第2次観光ビジョンの明確なコンセプトとして「通過される絶景から、滞在する拠点へ」（ひがし北海道の観光ハブ化）を掲げることを再確認。 ・4つの基本方針への絞り込みを提案し、戦略を「絵に描いた餅」にしないために、宿泊率や滞在時間などの数値目標（KPI）の規模感について各委員に意見を求める。
明瀬（事務局）	3 報告事項 第1号 前回会議の結果について （資料に基づき内容説明）
宮田委員長	4 協議事項 第1号 基本方針及び重点施策の具体化について 【専門人材の確保・育成】 ・「ガイド不足」の現状に対し、将来何人のガイドが必要か現役ガイドの滝川・小林両委員へ発問。
滝川委員	・「ガイドの人数」は手段であり目的ではない。まずはトレイルで「年間何人受け入れるか」という上位の稼働目標を定め、そこから必要数を「逆算」すべきだと思う。
小林委員	・地域おこし協力隊を採用する際、任期終了後に「プロのガイドとして食べていける生活設計（自立支援）」をセットで考えなければ、焦って採用しても人は定着しないと思う。 ・現場の実態として、車の回収（回送）などが1人では回らないため、ボランティア含め「あと1～2人」のガイド人材がいれば、現場の運営は極めてスムーズになる。
宮田委員長	・屈斜路カルデラトレイル（KCT）の将来の利用者増のイメージや、それに必要なガイド数の具体的な数値想定について問いかけ。
小林委員	・例えば「6月～10月のシーズン中、平日は毎日ツアーが1本、土日は毎日2本ある」という稼働目標を立てれば、そこから逆算して必要なガイド数が明確に算出できる。
信太委員	・トレイルの現状として、6月～7月は曇りや雨が多く天候に左右されたが、登録者数・カウンター数値ともに去年と同程度をキープして推移している。
滝川委員	・ガイド1人が安全に引率できるのは最大7～8人。車の回収や緊急時の待機サポートを考慮すると、常時3～4名が同時に出勤・サポートできる

	体制が必要。
宮田委員長	【稼ぐ組織体制の確立】 ・美幌観光物産協会の今後のあり方や数値目標の捉え方について意見を求める。
信太委員	・全体データ（入り込み数約 78 万、宿泊者数約 2.6 万）をゴール（KGI）に据え、そこから逆算して必要な体制や人員を決めるべきだと思う。 ・現在の観光協会は、JR 窓口業務や「和牛まつり」などのイベント実務で手一杯になっていると指摘し、「本当に稼げる組織」に体質改善するための組織改編・法人化の議論をしていかなければならないと思う。
宮田委員長	【街なか誘導・受入基盤】 ・みどりの村、峠の湯、交通ターミナルの状況や利用者の拡大見込みについて発言を求める。
小笠原委員	・「みどりの村」は来年 4 月のリニューアルオープン後、コテージ宿泊や空き家登録制度、関係人口づくりのイベント等を連動させ、年間利用者を現在の 1.5 倍（約 4.5 万～5 万人）に増やす目標を掲げている。
信太委員	・「きてらす」はリニューアル後に利用者が 2 万人（R7 年度は林業館と合わせ全体で 81,501 人）に激増しているが無料施設。JR・バスの窓口は将来縮小・廃止される流れ。 ・町内の宿泊可能キャパ（5 施設・226 人、フル稼働で年間約 8 万人泊）から、現在の宿泊客延数（26,861 人 ※R7 実績）を割り出すと、現在の宿泊稼働率はわずか「約 32.6%（ほぼ 3 割）」である。この稼働率を将来何割に引き上げるかという議論が必要だと思う。
明瀬（事務局）	・これまでの町の実績調査には「民泊」が含まれていなかったため、外国人観光客の宿泊増加などの実態を捉えるべく、今年下半期から民泊事業者のデータも加えて目標数値を精査する。
信太委員	・情報発信に関して、町の公式 SNS のフォロワー拡大には、行政と観光協会が密に連携し、キャラクターなどの活用も含めて統一感を持って進めるべきだと思う。
宮田委員長	・商工会議所側から「美幌峠の入り込み客数をかつての 100 万人規模に復活させたい」との要望があるが、現場の感覚はどうかと問いかけ。
滝川委員	・「お盆や夏休みはこれ以上来てほしくないレベルで大混雑しており、増やすべきは客の『数』ではなく『質（良いお客さん）』を増やしていくことが必要だと思う。 ・逆に冬は女満別空港に人が来ているのに美幌峠はガラガラ。夏冬の不均衡を埋めるため、冬にテナントが売上を伸ばせる仕組みを考える「冬の課題」をビジョンに入れるべきだと思う。
午来（事務局）	・教育旅行（修学旅行）の現状として、大宮の相談会では美幌の知名度が皆無だったが、直近の 9 月 9 日には東京の中学校から 94 名の受け入れが決定している。 ・今後の目標はファームステイ 10～20 校、ファームビジット 100 名程度だが、100～120 名規模の大型オファーが来ると美幌・津別（キャパ計 70

滝川委員	名) だけでは対応できない。 ・大型オフィスの獲得には、北見市や日赤看護大を交えた「3～4 市町村の広域連携」による受け入れ体制の構築が必須であると訴え、北見側と連携協議を進めていく。 ・「平日毎日 1 本、土日 2 本」などの目標から逆算して動くことは民間でもできるが、「各施設でどの属性の人がいくらお金を落としたか」の詳細な観光データの収集・整理は民間では不可能。これこそ役場に担ってほしい。 5 意見交換 専門家 「域外需要の取り組みに向けた地域の魅力向上事業」との意見交換
奥山委員	【峠の湯びほろ】 ・平日は地元の高齢者、土日は RV パーク等利用の道外観光客で賑わう。ドーム型浴室が魅力です。 ・課題は、地元の常連客と外からの観光客が、サウナの場所取りなどのマナーを巡って衝突してしまうこと。双方が「仲良く愛される癒やしの施設」にしたい。 ・レストランがお風呂利用客しか入れないと思われている誤解を解き、気軽に立ち寄れるようにしたい。
泊り委員	【JA びほろ】 ・ふるさと納税が始まってから、農協や農家の側でも「自分たちの野菜が外でどう評価されているか」の意識が変化。 ・最大のジレンマは、美幌産のアスパラや野菜は品質が高く引き合いが強すぎるため、ほぼすべて市場（地域外）へ出荷されてしまい、「観光客が美幌に来て、美味しい地元の野菜をその場で食べたり買ったりできる接点がない」ことである。 ・直売所はあるが地元の常連客で朝イチに完売するため観光客を呼ぶ供給力がない。商業・飲食店と連携して食べられる仕組みを検討したい。
信太委員	【美幌観光物産協会】 ・10 年前からの変化として、かつては大型バスの団体旅行が主流だったが、スマホやナビの普及、コロナ等により、個人が自分で SNS サーチして自由にレンタカー等で動くスタイルへ完全にシフト。 ・若いガイド（30～40 代）がしっかりと稼げて、食べていける職業としての「持続可能な雇用設計」が最優先課題 である。 ・美幌峠は何も磨かなくても人が来る「ギフト」だが、住民にとって空気のような存在になり価値を磨いてこなかった。今後は町全体で取り組むべきである。
円舘委員	【美幌観光物産協会】 ・伝統工芸「木工品（記事士）」を制作。現在、海外のインバウンド茶の湯ブームで茶器（夏目等）の需要が急増している。 ・星空プロジェクトでガイドを育成しており、美幌峠の「低緯度オーロラ」の天体写真が SNS で全国的にバズり、オーロラ情報が出ると夜間の峠は大混雑・満車状態になる。 ・しかし、夜間は売店などのテナントがすべて閉まっているため、せっかく数千人の人が峠に来ているのに町に 1 円もお金が落ちない「夜間経済効

	果ゼロ」というもったいない機会損失である。
原田委員	【北見工業大学】 ・本学が独自に開発した「定点カメラ」の美幌峠への設置を打診したことが、美幌町との最初の縁である。 ・今後は科学的に「明日、雲海が出る確率（雲海指数）」や「星空指数」を予測・発信し、大学の力を交えて冬の美幌峠を盛り上げるアプローチを展開したい。
小林委員	【地域おこし極力隊】 ・トレイル客が町の店で「トレイル最高だった」と言った際、店主が「何それ？」と反応してしまう「町民と観光客の温度差（内側と外側の乖離）」がある。 ・温度差を埋めるため、毎月「町民向けの美幌峠トレイルツアー」を地道に開催。参加者の大半が女性のリピーターとなっており、さらにお友達を連れてきてくれるなど、じわじわと地元のファンが増えている。
滝川委員	【ピーカン企画】 ・知床や摩周など美幌峠外のガイドで食べていけているが、美幌峠に雇用を生んだり経済を循環させたりという「恩返し（還元）」ができていない。 ・今後は宿泊事業や、自分以外も雇える観光会社を立ち上げ、プレイヤーとして美幌峠にお金が落ちる仕組みを実践していく
午来（事務局）	・北海道内で唯一「農業の現場を最も知る教育旅行コーディネーター」という圧倒的な差別化を武器に学校や旅行会社に売り込み中である。 ・修学旅行は「人（コーディネーター）の人間性」でリピートが決まる。宮田委員長が作成した過去3回のまとめ資料のクオリティを絶賛し、これらを武器にさらに広域を繋ぐ接着剤になりたいと表明
小笠原委員	【みどりの村】 ・来年4月の緑の村リニューアルに向け、サービス設計、ターゲット整理、利用料金の改定などの準備を全力で進めている。
中谷氏	【専門家からの主な意見】 ・これだけ熱いプレイヤーが揃い、かつ役場や宮田委員長が作った既存のまとめ資料が完璧に整理されている地域は全国的にも極めて珍しく、素晴らしい土台がある。 ・観光客を増やすこと自体を目的としてはいけない。 ・観光は、地域や住民の暮らしをより良くするための「手段」として位置付けることが重要である。 ・観光客に対して、自分の町に誇りを持って語れる住民を増やすことが重要である。 ・住民間の「温度差を埋める活動」が大切であり、小林委員の取組・意見を高く評価。 ・12年間のビジョンであるため、現段階で急いですべての数値や内容を固める必要はない。 ・完成したビジョンを一方向的に公表するのではなく、策定段階から住民が参加できる仕組みが重要である。例として、温泉施設やスーパー等に施策案・方向性を掲示し、住民がシール投票するなど、住民参加型の手法がある。

宮田委員長	・宮田委員作成資料をベースに、委員同士の対話を重ねながら、美幌町の方 向性を表す「言葉（コンセプト）」へ磨き上げていく。専門家からも複数 案を作成して、次回の会議で提案する予定である。 ・今回の会議で出た「稼働から逆算して考えること」や「冬の閑散期をど うするか」、「夜間のオーロラがどれくらい経済効果につながるのか」、そ れから「役場としてもっと細かいデータを集めること」については、しっ かり頭に入れて、次回のビジョンづくりに活かしていきたい。
明瀬（事務局）	6 その他（次回の会議について） ・次回の第5回会議は10月中を予定しており、「素案・目標値の確認」を行 いたい。 ・今日出されたKPIや基本方針、重点施策については、事務局でもう一度 整理し、中谷氏からのアドバイスも踏まえながら、より具体的な目標数値 を検討した上で、次回、委員の皆さんと改めて確認・検討していきたい。
宮田委員長	7 閉会 （委員長による閉会挨拶）